

E-FIELD

Education For Implementing End-of-Life Discussion

STEP 4

「多職種および家族も含め、慎重に患者にとって最善の診療方針について合意する」

講義

- 多職種における倫理的規範に基づいた検討と多職種の価値観のすり合わせ

到達目標

- 倫理規範に基づき、患者にとっての最善の選択について検討することができる
- 異なる職種や立場をもつ者の視点や価値を尊重しつつ、合意形成を行うことができる

「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」 方針決定の流れ（イメージ図）

人生の最終段階における医療およびケアについては、医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本として進めることが最も重要な原則



患者の意思が
確認できる

患者と医療従事者とが十分に話し合い、
患者が意思決定を行う



人生の最終段階における
医療とケアの方針決定

十分な
情報の
提供

家族が患者の
意思を推定できる

患者の推定意思を尊重し、
患者にとって最善の治療方針をとる



患者の意思が
確認できない

STEP4

- ・ 家族が患者の意思を推定できない
- ・ 家族がいない

患者にとって最善の治療方針を、
医療・ケアチームで慎重に判断
(※家族がいる場合は十分に話し合う)

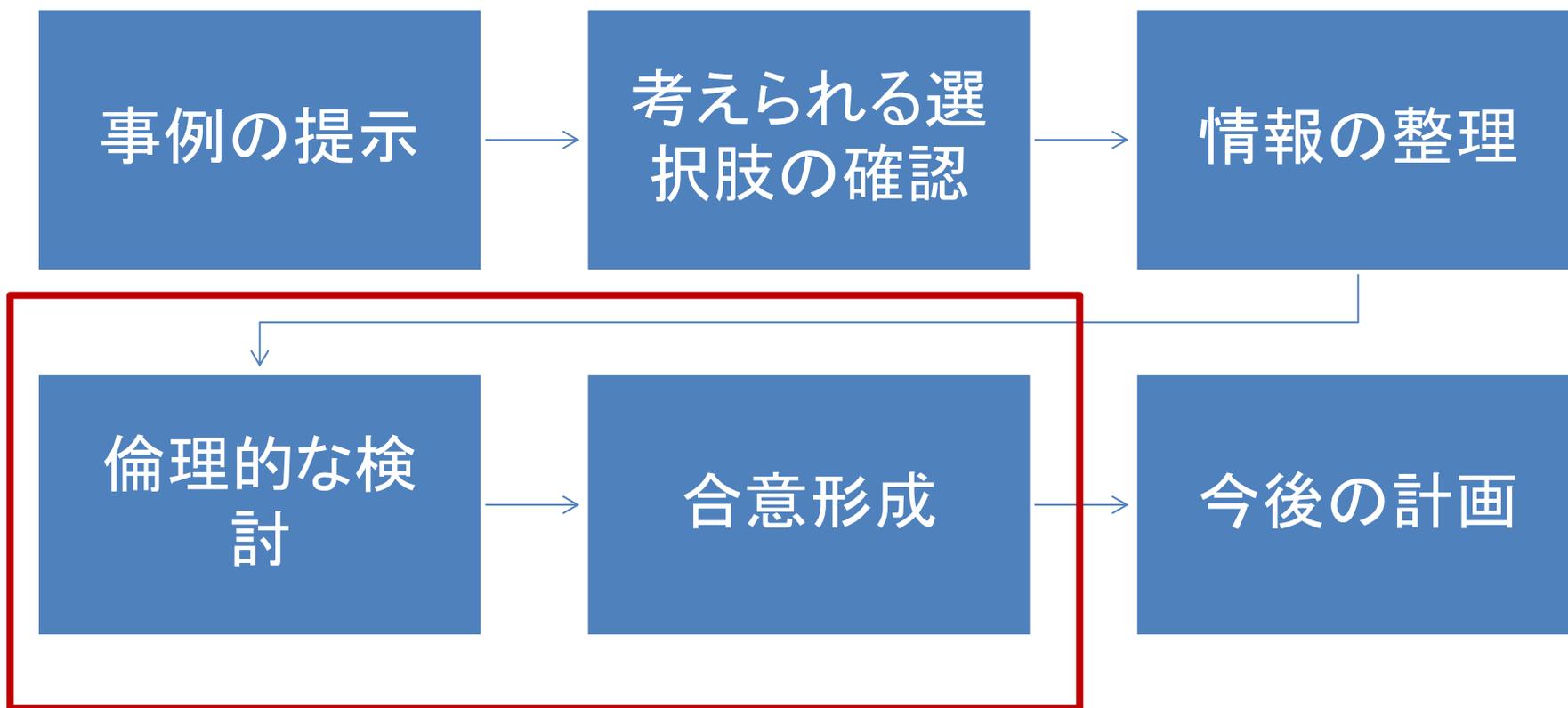


- ・ 病態などにより医療内容の決定が困難
- ・ 家族の中で意見がまとまらないなどの場合

→ 複数の専門家で構成する委員会を設置し、治療方針の検討や助言



多職種カンファレンスの手順



患者にとっての最善方針について 合意する

- 規範に基づいて情報を評価する
- 各職種の視点を考慮する
- 「患者にとっての最善」を中心に話を進める
- 大まかな方向性を確認する
- 具体的な計画や、その後本人・家族との対話の進め方について議論する

倫理規範に基づいて患者にとっての最善の選択を 検討するための基本的な倫理原則

- 自律尊重原則
 - 患者の意思を尊重する
 - 患者のプライバシーを尊重する
- 与益・無危害
 - 患者の最善の利益になる診療を行う
 - 利益と害の適切なバランスを取る
 - 患者のQOLの維持・向上を目指す
 - 患者とその家族の脆弱性に配慮し、共感的に接する
- 正義・公正
 - すべての患者に公平に接する（本質的に重要な差異がない場合は、接し方や待遇の仕方に差をつけない）
 - 医療の公共性と社会性を認識する
- より基礎的で包括的な基礎的原則（規範）
 - 患者の尊厳、人権、そして人間性を守る。
 - 医療プロフェッショナルとしての職業倫理を遵守し、多専門職種から構成された医療・ケアチームによるチーム医療に徹する。

倫理原則に基づいて検討する

与益最大化原則 曰…

「肺炎の治療を十分に行えばまた元気になる」

自律尊重原則 曰…

「本人が帰ると言っているのを尊重すべきだ」

肺炎で入院した88才の患者さん。入院後3日目に「もういやだ。家に帰る!」、と怒鳴っている。肺炎の状況はまだ入院が必要。帰宅とすべきか、鎮静や抑制を行って入院継続すべきか…?

不加害原則 曰…

「治療のためとはいえ、抑制を行うことは許されない」

公正原則 曰…

「この人だけに病棟の看護師を張り付きで担当はできない。」

「倫理的に考える」際の重要留意事項

- 思考停止、安易さの否定：服従（obedience）、模倣（imitation）、感情（feeling）や願望（desire）、直観（intuition）、習慣（habit）などだけで診療方針を決めてはいけません（世界医師会『WMA医の倫理マニュアル』日本医師会発行、樋口範雄監訳、p27）
- 第三者性：共感しつつも、一定の距離感を保って冷静に考えましょう。
- 医療チームの推奨する選択の普遍性について確認してください
- 区別すべきことを区別する（公平性）、同じようなものは同じように扱う。疾患名や悪性・非悪性で患者への倫理的アプローチが、全く異なるものになるわけではありません
- 原則的に絶対に犠牲にしてはいけないこと、避けるべきことを確認をしましょう（十分な正当化理由がない場合の、強制、欺瞞、排除等は禁止です）
- 常に今まで「発見された」倫理原則や人権（倫理的知識）を頭にいれて患者にとっての最善を考え、同時に各自で自由にアイデアを発想しましょう
- 患者診療において何が最優先されるべきかを確認し、それを支持する原則を明らかにしましょう。その上で、バランス（中庸）のとれた、出来るだけ多くの大切な価値を実現できる選択を行いましょ

患者のにとっての最善を考えるための 重要規範

- 自由、自律を尊重する
- 尊厳：患者は尊敬の念をもって丁寧に治療され、彼等の社会的文化的価値は尊重されるべきである
- 患者の見解を考慮に入れる
- プライバシー：治療上のよい理由がないのなら、患者は医学的介入から自由であるべきである
- 健康関連ニーズを満たす
- 不当に差別されない
- 患者に近い人々の見解を考慮に入れる

参考：希望や意向を表明できない患者を診療するにあたっての一般原則

General principles for patients who cannot express their wishes or intentions

British Medical Association Ethics Department Medical Ethics Today The BMA's handbook of ethics and law Second Edition, BMJ Books, 2004, London, p100.

倫理的推奨が含むべき内容例

- 具体的な提案
- 尊重すべき倫理原則（規範）および勘案する必要のある重要医療倫理概念
- 提案の根拠（優先すべき原則とその理由、患者の最善の利益の明確な定義）
- 代替案の列挙と推奨案との比較考量の詳記
- 主たる提案の倫理的、心理的、社会的、法的問題点
- 回避可能な倫理的ディレンマに対する予防策

できるかぎり
のことをして
あげたい。

医師

MSW

できるかぎり
のことをして
あげたい。

できるかぎり
のことをして
あげたい。

看護師

ST/PT

できるかぎり
のことをして
あげたい。

各職種の視点（職種別に抱く価値）

職種により何を大切にケアをするかが異なる

- 病院医師：『命を延ばす』事を重視する傾向が強い
- 在宅医：『本人・家族の希望』を優先する傾向
- 看護師：『安全』を重視する傾向がある。
- 医師・看護師は父権的傾向が強い傾向にある
- 福祉職：『本人の希望』を重視する傾向がある
『死』に対しては不慣れで慎重
- ソーシャルワーカー：患者の意思を代弁すること自体が仕事で、調整役。患者の自律を重んじる傾向がある

共通点は『対象者の利益』を願っていること

多職種で行う対話で配慮すること

- 関係者それぞれが認識している状況について提示しあい、理解しあう
- 関係者それぞれが想定している目的（ゴール）を提示しあい、理解しあう
- 関係者それぞれが持つ意見の背景となる価値観や常識について提示しあい、理解しあう
- 関係者間の認識の相違が生む関係者の思考や感情に共感する
- お互いの認識や価値の相違を理解した上で、状況・目的・価値を調整する

コンセンサス形成

- コンセンサスは医療者の中におけるコンセンサスであり、実際の選択はその後の医療チームと患者側の対話によることを理解する
- 「患者にとっての最善」を常に意識する
- 「大まかなケアの方向性」と「具体的な選択肢の決定」を分けて議論する
- 強い推奨か弱い推奨かを意識する

推奨について配慮すべきこと

- 具体的に推奨する
- 推奨に重みづけをする
- 勧告や命令ではないことを当事者に理解していただく
- 合意できていない事柄を尊重する
- その後のコミュニケーションや細かな計画についても言及する
- 当事者に意思決定能力がある場合は、最終決断は当事者のものである